

# 正月用キク出荷始まる

JAおきなわ

JAおきなわ(大城勉理事長)は19日、本土向け正月用飾り花のキク類やドラセナなど切り花類1800㌻(約41万本)を、日本航空の貨物臨時便で那覇空港から東京・羽田空港向けに出荷した。切り花類は「おきなわの花」として、得意先や大田市場(東京)を中心に都内の6市場へ送られ競りにかけられる。

今年12月の出荷計画はキク類が前年比28%減の6万7千㌻。そのうち小菊が約5万5千㌻と8割を占め、大菊は約

1万5千㌻、スプレー菊が約1500㌻を見込む。9〜10月に襲来した台風24、25号の影響で生産量は減少。そのため1本当たりの平均単価は前年より約3円上がり、キク類で販売金額は5億5千万円以上を見込んでいる。

JAおきなわの高江洲修営農販売部次長は「台風の影響もあつたが、農家の努力のおかげで無事安定出荷できる。消費者に喜んでもらえるよう、責任産地として全国に届けていきたい」と語った。



正月用キクなどをPRする(左から)JAおきなわの高江洲修営農販売部次長と日本航空の津嘉山実結さん、仲村武恒マネジャー。19日、那覇空港